

氏名： 新井 由紀夫 (ARAI Yukio)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 文学修士 (1985 東京大学)
専門分野： 西洋史学、イギリス中世後期史
URL： <http://www.li.ocha.ac.jp/hum/arai.htm>
E-mail： arai.yukio@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

中世イギリス史／史料論／ジェントリ／社会的結びつき／家系文書史料群
medieval history of England / sources and documents / gentry / social relationships /
archive of gentry family

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・新井由紀夫「院生参加プロジェクト 4a 歴史的多文化・多民族社会におけるリスクとコミュニケーションの研究」「オーラル・ヒストリーから読む日本女性のリスク経験 ―社会学・歴史学的方法」『平成 19 年度成果報告集 特別教育研究経費事業 コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応 (リーダー 平岡公一)』お茶の水女子大学 2008 年、57-58、84-86 頁。
- ・西欧中世史研究会報告
新井由紀夫「15 世紀イングランドにおけるジェントリのハウスホールド・アカウント史料について ―ラングレイ家の家政会計記録 (1473 年) を例に」、西欧中世史研究会大会、2008/05/10、於島根県民会館会議室。

◆研究内容 / Research Pursuits

ラングレイ家の家令会計記録 (The National Archives、Public Record Office、E101/516/9) 全 18 葉からなる記録の最初の部分 (1473 年 3 月～11 月、ff. 1r-5v) から何が読めるのかを考えてみたものが、西欧中世史研究会報告、新井由紀夫「15 世紀イングランドにおけるジェントリのハウスホールド・アカウント史料について ―ラングレイ家の家政会計記録 (1473 年) を例に」(2008/05/10、於島根県民会館会議室) である。ジェントリ女性の家政会計記録を、経済史的観点だけでなく、社会史や宗教史、政治史との関連でも読めることが明らかとなった。今後も引き続き、この史料をトランスクリプトしながら、読んでいく予定である。

◆教育内容 / Educational Pursuits

講義では、昨年に引き続き 15 世紀のジェントリ家政会計簿を紹介しつつ、そこから何が読み取れるのかを議論しました。ゼミでは、最近の雑誌英語論文を、担当者による発表形式で読んでいます。2008 年度の論文テーマは「古典期アテネとデルフィの神託：民主主義と予言の関係」「18 世紀イギリスにおけるフリーメーソンと自然哲学と科学文化」「中世写本装飾画や活字本挿絵に描かれたリチャード 3 世像の虚実」「近世日本を描く：徳川時代の旅行記にみる空間認識の変遷」「江戸期の幕藩体制と男色文化への対応」「魔法の杖とビーグル号のダーウィン：航海での宗教的体験が進化論思想に与えた影響」「パスカ・ロゼのコーヒー・ハウス、1652～1666 年（ロンドン大火以前）」「イスラム社会をささえたワケフの多様性」「フランス王ルイ 11 世とルネサンス期フィレンツェの聖遺物（奇蹟をよぶ魔法の指輪）」「ユーイング夫人の少女小説『6 歳から 16 歳』を読む：大英帝国における「健康な」少女の身体性」など。

◆研究計画

キャサリン・ラングレイというロンドン豪商出身でジェントリに嫁ぎ未亡人になった女性とラングレイ家に関する史料を集めて、ぼちぼち読み始めています。彼女の遺言書や彼女のもらった贖宥状、それにラングレイ家の会計記録などを読んでいきます。これらをもとに、キャサリンの生涯と社会との関係を再構築してみようことを計画しています。また、ジェントリの家系文書史料群（データは全部で 2000 件程度）を整理分析することを試みています。

共同研究は、

1. 中世ヨーロッパの史資料に関する研究（科研）
2. 歴史的多文化・多民族社会におけるリスクとコミュニケーションの研究（平成 19 年度特別教育研究経費事業「コミュニケーションシステムの開発によるリスク社会への対応」プロジェクト）
3. 身分感覚の比較史的研究（科研）

◆メッセージ

なにごとにも好奇心を持ち、どんなことでもどん欲に楽しむという姿勢は、歴史学をやる上であんがい欠かせない要素だと思います。遊びや楽しみのなかから学問のヒントを得ることもあります。学生さん達との学科旅行での宴席で、比較社会史という授業のテーマ「ホモセクシュアルの比較社会史」が決まったのですが、やってみると奥が深く、史学の先生達との共同研究テーマにまで発展してしまったほどです。

歴史学で扱えないようなテーマはない、何でもありだと最近よく思います。歴史学をやる上でこうしなければだめだということもありません。われこそは、という皆さん、是非、お茶大比較歴史学コースにいらして下さい。